転学部困難の時代

――昭和63年度学生相談室活動報告――

総合科学部　岩村　聡

昭和63年春，私達の大学では，入試改革による入学者の定員割れを防ぐため，定員確保の努力が一段と強化された。その結果，学科ごとの「欠員」を前提とする転科・転学部は，この年度，きわめて実現困難な状況となり，例年転科・転学部相談の多かった学生相談室への来談傾向にも，ちょっとした異変が起きた。

1．カウンセリング

この年度，学生相談室への来談者総数は，実数で376名，のべ数で987名（日，回）であった。前年度と比べて，実数は11％増加，のべ数は16％減少している。

表1　男女別，学年別，学部分校別来談者実数

	63年度	62年度
計	376名	339名
男	283	238
女	93	101
1年	243	231
2年	56	38
3年以上	44	43
院生等	33	27
総合科学部	21	25
文学部	21	26
教育学部	15	23
福山分校	24	16
学校教育学部	16	26
法学部	20	19
法学部第二部	12	6
経済学部	19	16
経済学部第二部	7	13
理学部	44	39
医学部	21	8
歯学部	16	5
工学部	88	72
生物生産学部	19	17
院生等	33	28

来談者実数の男女別，学年別，学部分校別内訳は，表1のとおりである。

前年度と比べて，男女別では，男子学生が増加，女子はわずかに減少している。学年別では2年次生の増加が著しい。1年次生の来談がさほど伸びなかったのは，前述の転科・転学部相談の減少が一つの原因であろう。また，学部分校別では，歯学部，医学部などが増加し，経済学部第二部などが減少した。

相談内容別実数とのべ数は，表2のとおり。

表2　相談内容別来談者実数及びのべ(日)数

	63年度	62年度
計	376名(987日)	339名(1,171日)
修学・進路関係	291(405)	265(488)
進路関係小計	150(208)	156(295)
就職	12(20)	2(2)
進学	4(5)	3(7)
留学・旅行	3(4)	6(8)
休学・退学	3(4)	2(2)
転科・転学部	47(71)	76(148)
再受験	48(56)	33(42)
留年	2(5)	3(23)
その他の進路	31(43)	31(63)
勉学・研究	127(166)	89(127)
課外活動	7(10)	9(27)
その他	7(21)	11(39)
心理・適応関係	72(550)	62(668)
心理障害	42(410)	35(462)
対人関係	13(24)	10(62)
自己探求	17(116)	17(144)
その他	0(0)	0(0)
その他	13(32)	12(15)
経済生活	3(4)	0(0)
その他	10(28)	12(15)

修学・進路関係も，心理・適応関係も，実数で増加し，のべ数で減少している。全般的に，再来談・定期来談のケースが減少しているとい

える。さらにこまかい分類では，「再受験」や「勉学・研究」などは増加したが，「転科・転学部」は激減した。「再受験」の増加は，入試改革の影響を連想させるが，たしかなことはわからない。「勉学・研究」の増加は，4月の新入生の「履修計画」相談のラッシュを反映している。

転科・転学部相談の減少は，実数で38%，のべ数で48%に及ぶ。その理由については，冒頭でも触れた。総合科学部学務第二係作成の一覧表によると，この年度，1年次生の転科・転学部受け入れ可能学科は，わずか2学科（前年度4学科）。受け入れ可能学生数は7名（前年度16名）であった。これに対して，転科・転学部を「許可された学生数」／「出願者数」は，同じく総合科学部学務第二係作成の名簿によると，昭和63年度（平成元年春）5名／7名，62年度は14名／27名となっている。また，学生相談室への「転科・転学部」に関する来談者は，昭和63年度実数47名（のべ数71），62年度76名（148）であった。

ちなみに，転科・転学部相談が，学生相談室の役割の大きな部分を占めていた昭和60年，私達が教官団向けに作成した資料『学生の転科転学部について』には，『欠員などがあって転科・転学部を受け入れる用意のある学科は10～15学科」「実際に転科・転学部を許可される学生は，15～20名。出願者は30～40名。それに対して，転科・転学部問題で学生相談室に来談する学生は，約100名（来談統計では『進路』に分類されているものを含む）」「転科・転学部の（潜在的）希望者は，一つの学年の学生の約4分の1」などと書かれている。当時は，これらの数字が転科・転学部をめぐる実態であった。

これまで長いあいだ，「転科・転学部」は，「再受験」と並んで，自分の進路に疑問や不満をもつ学生にとって，相談室への来談の糸口（「通行手形」）となってきた。いわゆる不本意入学の学生などが，転科・転学部制度の存在を知って来談し，それをきっかけに自分の進路を考え直したものであった。その結果，転科や転学部を実現した学生もいるし，むしろより多くの学生は，転科・転学部はできないことがわかったが，進路への疑問や不満を整理して，新しい気持ちで自分の専門にとりくんで行ったものであった。

だから，昭和63年度のように，転科・転学部の実現可能性が，さらに極端に小さくなり，転科・転学部相談やその他の進路相談が減少する状況は，学生相談担当者として，注意して見守るべき事態のような気がする。

最後に，来談者のべ数の月別内訳は，表3のとおりである。

表3　来談月別来談者のべ(日)数

	63年度	62年度
計	987日	1,171日
4　月	264	204
5　月	83	120
6　月	101	121
7　月	43	63
8　月	18	27
9　月	80	98
10　月	93	131
11　月	64	83
12　月	54	72
1　月	69	106
2　月	77	88
3　月	41	58

前年度と比べて，4月は増加したが，その他の月は，軒並み減少している。4月の増加は，前述のとおり，新入生の「履修計画」相談の増加を反映しているといえるだろう。

学生相談室は，広島大学の学生の相談なら，なんでも受けつける。

勉強のしかた，成績不振，不登校，留年，休学，教員などの資格のとり方，留学，クラブ活動，学外の団体とのトラブル。進路変更，転科・転学部（この種の相談は，1月にはラッシュになるので早目に！），大学再受験，就職，大学院進学，友達づくり，対人関係，先輩や教師とのトラブル。失恋，性格，自己開発，不安，劣等感，性的な悩み，いじめ，迫害。経済生活，契約販売やローンのトラブル。交通事故，大学への苦情，などなど……。（そして，相談室だけで解決しきれない問題は，どこへ相談したらいいかをいっしょに考える。）

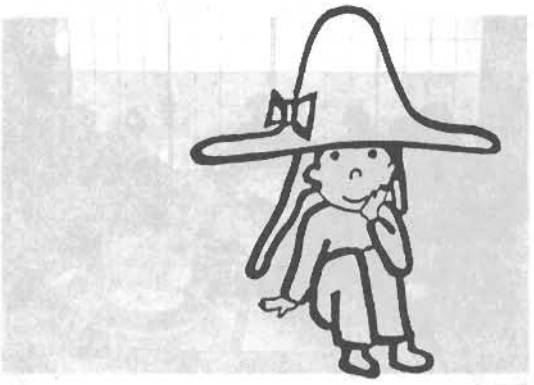
カウンセラーとの相談の特色は，まず，1対1で必要なだけたっぷり**時間をかけて**，必要なら回を重ねて，相談にのってもらえること。また，

相談の**秘密が守られる**こと。さらに，アドバイスの**押しつけがない**こと，などである。

あなたも，いつでも気軽に学生相談室を訪ねてください。

また，不登校，ノイローゼ，留年など，指導困難な学生をかかえてお困りの先生方。どうぞご遠慮なく，学生相談室をご紹介ください。

なお，学生相談室は，，総合科学部プレハブ3号棟（大講義室前）2階にある。開室時間はいちおう午前9時から午後5時まで（土曜日12時まで）だが，この時間帯に来室できない人のためには，事前に連絡さえあれば，できるだけ希望の時間に相談に応じている。



2．エンカウンター・グループ

学生相談室は，個人相談と並んで，エンカウンター（出会い）・グループ活動もおこなっている。

「オープン・フライデー」は，広大生なら誰でも，都合のいいときに（時間の途中からでも），自由に参加できる（会員制をとっていない）話しあいの会である。授業期間中毎週金曜日午後5時から6時30分まで，学生相談室で開いている。話しあいは，参加者のうちの誰かが最近のできごとや，生活や，当面している問題などを話し，みんながそれに感想を述べたりする。会費200円でお茶やコーヒーやお菓子が出る。

会のあと，有志が何人かで夕食を食べに行ったり，ビリヤード場へ行ったりすることもある。月1回は，バースデー・ケーキを用意して，その月生まれのメンバーのお祝いもする。また，後述の「土曜友の会」と合同で，春は山菜とりのピクニックに行ったり，夏はビア・ガーデンでパーティーをしたり，年末は忘年会をしたり，学年末には追い出しコンパを開いたりもしている。

オープン・フライデーは，昭和59年の発足。昭和63年度中には27回開催した。参加者は実数で19名。うち，学部生は13，院生等5，教職員1。のべ数154名。平均6名。前年度と比べて，参加者はやや減少しているが，新しい常連グループもできた。

あなたも，気が向いたときに参加してみませんか？

「土曜友の会」の方は，卒業生や，他大学学生や，社会人も参加する。月1回土曜日午後2時30分から5時30分まで，やはり学生相談室で開いている。今後の開催予定は6月3日，7月1日，8月5日，9月2日など。会費はやはり200円である。

この会は昭和50年の発足。昭和63年度は，12回開催した。参加者実数35名。うち，広大生15，教職員1，卒業生8，その他11。のべ数121。平均10名。前年度と比べてややふえている。

これらの**継続型エンカウンター・グループ**は，あたたかい雰囲気の話しあいや，レクリエーションなどの行動を共にすることによって，互いに支えあってゆこうとする「仲間活動」といえるだろう。

第13回**（合宿）「エンカウンター・グループ」**は，3月上旬，3泊4日の日程で，西条研修センターでおこなった。参加者13名。広大生9名と，相談室の教官（室長の黒川先生を含めて）3名。それに助っ人として，卒業生の石橋さん（日赤・原爆病院）にきてもらった。参加費9,000円。4日間は，ゆったりとした雰囲気の中で，互いに自分の歩みを話したり，感想をいいあったりした。ゲームや，トランプや，クイズや，卓球などのスポーツや，ビア・パーティーなども楽しんだ。

参加者の感想文を紹介したい。

『「ゆったりとした4日間……」というコピーが，エンカウンター・グループで過ごした4日間に対して，ぴったりとあてはまったと思う。

特別に行動や発言を強制されない集団というものに参加したのは，まったく初めての体験である。その一員であることが負担にならないことも，驚きであった。人間集団の新しいあり方の一つと思える。』

『とても楽しかった4日間であり，有意義な合宿であったと思います。「自己を見つめ直すこと」。とくにこの言葉がぴったりとくるものでした。またよく知らない，いってしまえば第三者の発言に対し，自分の内なる部分を重ねあわせるようにして，思考をめぐらすということができ，とても勉強になったと思います。』

『わりといい気分で，精神的にはすっきりしていると思います。この4日間で，苦しかった頃のことや，大学生活について，一区切りついたように感じます。』

『本当にゆっくりと落ちついてすごすことができて，本当に充実した4日間でした。この合宿は，私にとって，とてもゆとりが大切であるということを体験できたよい機会だったと思います。また学校に帰ると，きっとまわりの人達にあせらされると思いますが。今回のことを思い出して，マイ・ペースでやっていきたいと思っています。そして，まわりに流されずに，自分のよいところはよいところと肯定できる勇気を，持ちたいと思います。』

土曜友の会主催の第11回**「エンカウンター・グループ」**は，8月下旬，やはり3泊4日の日程で，大野町でおこなった。参加者は17名だった。

今年のこの会も，8月18日（金）～21日（月），大野町の国民宿舎宮浜グリーンロッジで開催する。世話人は，いずれも広大先輩の大島啓利さん（国立療養所鳥取病院），二井田令子さん（NTT広島中央健康管理所），山崎恭子さん（広島修道大学），それに筆者岩村，ほか若干名。参加費は，学生31,000円，一般36,000円。申込締切は8月2日（水）。キャッチ・フレーズは**「ゆったりとした4日間……こころリフレッシュ」**である。

関心のある人は，学生相談室まで問いあわせていただきたい。

この年，私達学生相談室は，全国の大学カウンセラーの会である**学生相談研究会議**の**「教官エンカウンター・グループ」**を，8年ぶりに復活開催した。7月，3泊4日，東広島市。参加者は，関東，中国，四国，九州から7名。カウンセラー自身のリフレッシュの機会として好評だった。

このほか，私達は，教育委員会や民間団体主催のさまざまなエンカウンター・グループを，サポートしている。エンカウンター・グループは，実社会では，教員，看護婦など，人の心を扱う立場の人達を中心に，幅広く利用されている。

このような**合宿エンカウンター・グループ**は，「自分を見つめるための話しあいの会」といえるだろう。ゆったりと自由であたたかい雰囲気の中で，真剣な話しあいをめざしている。前もって用意された講義や討論などはなく，みんなが話しあいたいと思うことを話しあう。多くの場合は，前述のように，参加者がかわるがわる，最近の生活や当面している問題などを話したり，みんながそれに感想を述べたりする雰囲気になる。その中で，人と対比したり，自分の歩みをふりかえったりして，自分を見直すことができる。出会いや心の交流によって，自分自身をリフレッシュできることもある。

あなたも，いちど参加してみませんか？